

観光資源の魅力とアクセスを考慮した周遊観光の選好分析

名城大学 学生会員 ○藤井 翔太
名城大学 正会員 中村 一樹

1. はじめに

2027年のリニア開通により大都市間のアクセス性が大幅に改善され、その観光波及効果は周辺地方都市へももたらされることが期待される。このような大都市に隣接する地方都市では、その近接性を活かして、大都市からの観光客の立ち寄りを促進する周遊観光が有効であると考えられる。しかし、地方都市では市内交通のアクセス性が悪く、移動時間の制約により立ち寄る観光資源の数が限られるというトレードオフの影響が大きい。また、地方都市の観光資源の認知度が低いと、周遊観光の動機付けにも繋がらない。

観光評価の既往研究では、室谷ら¹⁾は、全国の主要観光地の魅力度評価を行い、資源量・活動メニュー・宿泊施設・空間快適性を観光地の魅力として評価指標を整理している。古市ら²⁾は、観光地への交通アクセスについて、観光地と鉄道駅・駐車場の立地が周遊行動に影響することを明らかにした。しかし、観光評価において観光資源の魅力とアクセス性を両方扱っている研究はない。

そこで本研究は、観光資源の魅力とアクセスのトレードオフを考慮して、リニア開通による三重県の周遊観光の選好を分析する。まず、三重県内の観光資源の空間分布を分析し、観光拠点を抽出する。そして、観光拠点の組み合わせによる周遊観光の選好をWEBアンケートで調査する。

2. 観光拠点の抽出

三重県の観光資源が集まる観光拠点を特定するため、国土数値情報の観光資源のGISデータと、SNSデータの空間分布を分析する。SNSデータとして、写真共有型で写真投稿の位置情報データを取得することが可能である「flickr」を用いた。図-1から、観光資源とSNS投稿ともに鉄道沿線に集約していることが分かる。駅2km圏内の観光資源とSNS投稿の割合は、ともに60%以上となっている。このため、本研究では鉄道での観光周遊を分析

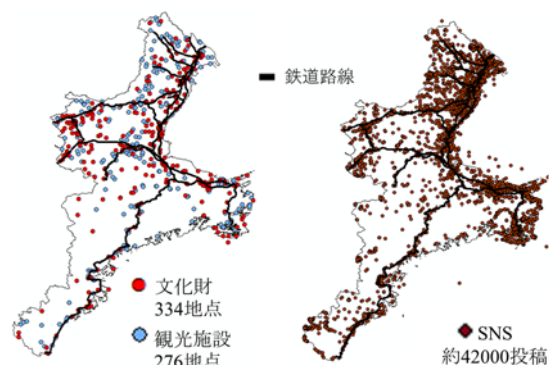


図-1 三重県の観光資源とSNS投稿数の分布

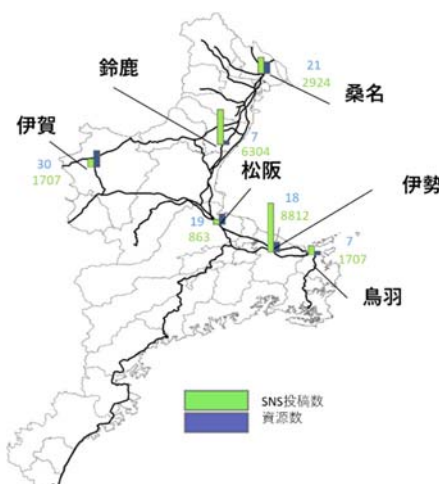


図-2 駅2km圏内の観光資源数とSNS投稿数

対象とする。

観光資源とSNS投稿を駅毎に集計した結果、伊勢、桑名、鳥羽ではSNS投稿と資源数がともに高い結果となった。しかし、伊賀と松阪では、資源数に対してSNS投稿数が低く、認知度が低いと考えられる。伊勢は最も知名度も魅力も高い資源といえるが、交通アクセスは遠く、このトレードオフが選好にも影響すると考えられる。よって、本研究では、観光拠点として、伊勢・鈴鹿・桑名・鳥羽・伊賀を抽出する。加えて、潜在的な拠点として、県境の鉄道駅である熊野、志摩、名張と、県の中心地である津、四日市も対象とした。

3. 観光拠点の周遊選好のアンケート調査

(1) アンケート概要

三重県の観光拠点間の周遊の選好を、観光地の

魅力とアクセスの観点から明らかにするために、WEB アンケートを実施した。アンケートでは、リニア中央新幹線開通による三重県への周遊観光の潜在的な選好を調査した。対象者は、リニア開通により中部圏への来訪増加が見込まれる関東圏の在住者とした。サンプル数は男性 400、女性 400 名の計 800 名し、そのうち半数はリニア駅が設置される東京都と神奈川県に在住者とした。また、年齢別も分布も考慮し、20～39 歳を 300 名、40～59 歳を 300 名、60～70 代を 200 名とした。

(2) 調査票の設計

アンケートは、観光拠点の個別の選好、観光拠

松阪（名古屋駅から70分）



図-3 観光拠点のエリア図（松阪市）

表-1 WEB アンケートでの主な質問内容

交通利便性	自宅からの移動時間が短い～長い
観光地の魅力	知名度が高い～低い
	個性的である～ない
	観光資源の数が多い～少ない
	雰囲気が良い～悪い
行動意欲	食事が良い～悪い
	この観光エリア（周遊ルート）を訪れたい～訪れたくない



図-4 三重県の広域図

点の県内周遊の選好、観光拠点の県間周遊の選好の3つについて、調査票を構成した。関東在住者にとって三重県の観光拠点の認知度が必ずしも高くないため、それぞれの質問について、拠点や周遊ルートのイメージが分かるような観光資源と交通情報を図で可視化し、回答者に示した。

まず、観光拠点の個別の選好を調査するため、各観光拠点の SNS 投稿の上位キーワードとエリア内の観光資源や食事の写真を表示したエリア図（図-3）を名古屋駅からの移動時間と合わせて示し、各拠点の評価を行った。評価アンケートでは、「交通利便性」、「観光地の魅力」、「行動意欲」について質問し、それぞれ 8 段階で評価を行った（表-1）。

次に、観光拠点の県内周遊の選好を調査するため、観光拠点間の鉄道での移動時間を表示し、各観光拠点をクリックしてエリア図を表示することが可能な三重県の広域図を示し、評価を行った（図-4）。ここでは、被験者が立ち寄りたい観光拠点を選択してもらい、その周遊ルートの評価を行った。

最後に、三重県は名古屋と関西圏をつなぐルートとしてのポテンシャルも大きいいため、観光拠点の県間周遊の選好を調査した。名古屋から関西圏へのルートの中で三重県に立ち寄る周遊観光を想定してもらうため、三重県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県を含めた関西圏の広域図を用いて県内周遊と同様に評価を行った。

4. まとめ

本研究では、三重県の観光資源の魅力とアクセスを考慮して、リニア開通による三重県の周遊観光の選好を分析した。観光資源の GIS や SNS のデータから観光拠点を特定し、その拠点周遊の選考を調査した。今後は、この観光資源の魅力とアクセスの選好を明らかにすることで、三重県での周遊観光の有効性を検証していく。

参考文献

- 1) 室谷正裕 観光地の魅力度評価—魅力ある国内観光地の整備に向けて— 運輸政策研究 Vol.1, No.1, 1998
- 2) 古市英士 アクセス交通と周遊行動分析による観光振興に向けた交通支援に関する研究 土木学会論文集 D3, Vol.68, No.5, I_453-I_465, 2012